

国際ソロプチミストアメリカ®

2025年6月 SIA手続に関する最新情報： リジョン大会および隔年大会 よくあるご質問

2025年6月に開かれた理事会にて、リジョン大会および隔年大会に関わるSIA手続の以下の修正内容をSIA理事会は承認しました。手続の変更によりご質問やご懸念が生じる場合があることを、私どもは承知しております。これらの変更に対応できるよう、以下のよくある質問をご参照ください。

変更内容

F. リジョンを運営・管理する手続、4.会議、会合、投票

現在の文言	改訂版の文言
(a)リジョンは毎年、リジョン細則によって定められている日時及び開催地において、年間に少なくとも1回のリジョン大会を開催する。リジョンは、この手続きのために以下のいかなる形式でもリジョン大会を開	(a)リジョンは、毎2年期の奇数年に、リジョン細則によって定められている日時及び開催地において、年間に1回のリジョン大会を対面で開催する。リジョンは、同2年期の偶

催することができる：対面式、音声またはビデオ会議、ソーシャル・メディアでのライブ配信。クラブは、リジョン大会とみなされるために、すべてのクラブによるセッションにおいて、リアルタイムで、音声もしくはチャット機能を介して、互いに、及びリジョンのリーダーとやり取りができる能力を有している必要がある。	数年に、任意でオンラインのリジョン大会を開催することができる。
---	--

G. 「大会」に追加された新たなセクション：

7. 隔年大会は、2年期ごとに対面式とオンライン式で交互に開催される。対面式イベントの場合は、以下の順序にて、連盟の3つの地理的マクロ・リジョン間において輪番制で開催されるものとする。

南米マクロ・リジョン－アメリカ・デル・スール、ブラジル、メキシコ／セントロアメリカの各リジョンで構成される。

北米マクロ・リジョン－カナダおよび米国の全リジョンで構成される。

アジア・マクロ・リジョン－日本、韓国、フィリピン、台湾の全リジョンで構成される。

会員からはどのような意見があがりましたか？

2023年に11,207人の会員にアンケート調査が送付され、そのうち2,031人（全体の18%）の会員から回答が得られました。各リジョンから少なくとも2人の会員がアンケートに回答した一方で、回答者の大多数はノースウェスタン・リジョン、ファウンダー・リジョン、日本リジョン（全体の11%）に属していました。回答者の24%は国際ソロプチミストアメリカ（SIA）の会員歴が26年を超える方々で、21%は会員歴が5年以下の方々でした。この調査を通して得られた情報を以下にまとめています。

リジョン大会に出席したのは回答者のうち67%で、出席しなかった回答者は33%でした。68%が「リジョン大会は毎年開催すべき」と感じている一方で、28%は「隔年で開催すべき」と感じていることがわかりました。「当団体の現行の手続では、少なくとも1年に1回リジョン大会を開催する必要があると定められています。将来的に、リジョン大会の隔年開催が義務付けられ、各リジョンの裁量により任意で毎年開催することも可能となった場合、その変更はどの程度望ましいものだと思いますか？5段階で評価してください。」この質問に対しては、次のような回答が得られました。

- 10% - まったく望ましくない
- 13% - 望ましくない
- 34% - どちらともいえない

- 30% - 望ましい
- 13% - 非常に望ましい

SIAのリーダーシップは、リジョン大会の計画に必要な時間と作業、包括的なイベントモデルの評価、コストに関する意見について調査しました。2025年4月には、以下の属性を対象とする別の調査が実施されました。

- 2022～2024年度 ガバナー
- 2024～2025年度 ガバナー
- 2026～2028年度 ガバナー
- リジョン・トレジャラー
- リジョン・セクレタリー
- リジョン委員長

この調査はSIAリーダー269名に送付され、そのうち153名から回答が得られました。各リジョンおよび各リーダーシップ職から回答が提出されています。回答者の大半は「リジョン大会の計画策定にかなりの時間を費やしており、イベント費用の高騰も大きな課題である」と指摘した一方で、73%は「リジョン大会を引き続き毎年開催すべき」だと答えました。

費用に関しては、「リジョン大会と隔年大会を同じ年に開催すると会員に財政的負担が生じる」と回答者の85%が考えていることがわかりました。さらに、「リジョン大会の開催費用を相殺するためにリジョン大会費の支払いを会員に義務付けている」と70%が回答しています。しかし、調査対象となった会員の59%が、このようなリジョン大会費支払いの義務化は「個人的な経済的負担にはならない」と回答した一方で、42%は「個人的な経済的負担になる」と回答しています。

最後に、「リジョン大会の開催頻度を隔年に移行することが、どの程度望ましいかお聞かせください」という質問に対し、SIAリーダーは次のように回答しました。

- まったく望ましくない8%
- 望ましくない36%
- どちらともいえない25%
- 望ましい18%
- 非常に望ましい13%

年次での大会開催を継続したいという声があがっている一方で、調査結果とコストおよび労力の分析は、より持続可能かつ包括的なモデルが必要であることを示しています。

これらの変更の提案理由はどのようなものですか？

リジョン大会の開催頻度と形式：大会年には、リジョン大会は任意での開催となり、オンライン形式に限定されます。大会年以外の年には、対面形式のリジョン大会を必ず開催する必要があります。

提案理由：リーダー達がこのような会議を「年次で開催すべき」と回答している一方で、「会議の計画策定に50%以上の時間を費やしている」とも述べています。さら

に、64%の回答者が、「出席する会員の割合はわずか24%にとどまっている」と答えています。会員の観点から「これらの会議に毎年参加するのには費用がかかり過ぎる」とリーダー達は指摘しています。

SIA隔年大会の開催頻度と形式：SIAは今後も隔年大会の開催を続けていきます。しかし、2030年以降、大会は隔年でオンライン形式により開催されることになります。

提案理由。現在の対面式の隔年大会モデルは、イベント費用が上昇していることを考慮すると、財政的に持続可能なものではありません。このイベントへの会員のエンゲージメントは低く、同イベント開催により当団体のリソースに生じている負担をこれ以上正当化し続けることはできません。さらに、オンライン形式での開催オプションを設けることで、対面式の大会に参加できない会員も、より積極的に関与・参加できるようになります。

リジョンは、対面式のリジョン大会を年次で開催する必要がありますか？

いいえ、対面式のリジョン大会を年次で開催する必要はありません。現在、対面式のリジョン大会を開催することがリジョンに義務付けられているのは、大会年以外の年度（奇数年）のみとなっています。

会員とリーダーからのフィードバックによると、これらの会議により会員に経済的な負担が生じてだけでなく、リジョン・リーダーシップのリソースにも大きな負担がかかることから、リジョン大会の年次開催をSIAはリジョンに推奨していません。リジョン大会を毎年継続して開催することを強く希望するリジョンには、大会年（偶数年）にはオンライン形式でリジョン大会を開催し、会員への経済的負担を最小限に抑えることが推奨されます。

今後の大会はどのようにして開催されますか？

SIAがより先を見越した積極的な計画策定を行いコストを最小限に抑えることができるよう、SIA理事会は次の輪番制の大会への適用を承認しました。この輪番制を採用することにより、SIAは連盟全体の様々な場所で大会を開催できるため、すべての会員が重要な活動や学びの機会に参加できるようになります。以下に、各「マクロ・リジョン」（SIAの複数のリジョンで構成される）と、今後の隔年大会の輪番を示しています。

大会	マクロ・リジョン	現在のSIAリジョン
第50回隔年大会 - 2028年	南米	- アメリカ・デル・スール - ブラジル - メキシコ／セントロアメリカ
第51回隔年大会 - 2030年	オンライン	該当なし
第52回隔年大会 - 2032年	北米	カミノ・リアル

			• セントラル・イースト・コースト • デザート・コースト • イースタン・カナダ • ファウンダー • ゴールドデン・ウエスト • ミッドウェスタン • ノース・アトランティック • ノースウェスタン • ピークス・トゥ・プレーンズ • シエラ・ネバダ • シエラ・パシフィック • サウス・セントラル • サザン • ウェスタン・カナダ
第53回隔年大会 - 2034年	オンライン	該当なし	
第54回隔年大会 - 2036年	アジア	• 日本中央 • 日本東 • 日本北 • 日本南 • 日本西 • 韓国 • フィリピン • 台湾	
第55回隔年大会 - 2038年	オンライン	該当なし	